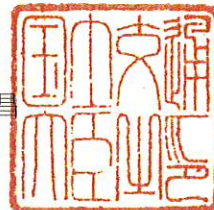


認定書

国住参建第 2827 号
令和 6 年 12 月 3 日

因幡電機産業株式会社
代表取締役社長 喜多 肇一 様

国土交通大臣 中野 洋昌



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 4 第 1 項第七号ハ（防火区画貫通部 1 時間遮炎性能）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
PS060WL-1302
2. 認定をした構造方法等の名称
給水管・排水管／化粧材付黒鉛含有ブチルゴムシート・セメントモルタル充てん／壁耐火構造／貫通部分（中空壁を除く）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

給水管・排水管／化粧材付黒鉛含有ブチルゴムシート・セメントモルタル充てん／壁耐火構造／貫通部分（中空壁を除く）

2. 寸法等の仕様：

寸法等の仕様を表1に示す。

表1 寸法等の仕様

項 目		仕 様
開口部	形状	円形(φ210mm以下)
	面積	0.0347m ² 以下
占積率 (開口面積又は鋼製スリーブ内径面積に対する配 管の断面積の割合)		57.8%以下
貫通する壁の構造等		ALCパネル又は鉄筋コンクリート造 厚さ 75mm以上

3. 主構成材料の仕様 :

主構成材料の仕様を表2に、配管の仕様を表3に示す。

表2 主構成材料の仕様

項目		仕様		
熱膨張性 シート	材料	化粧材付黒鉛含有ブチルゴムシート		
	寸法	総厚さ : 3.18(±0.1)mm以上 幅 : 70mm以上(埋設部70mm以上)		
	使用箇所	配管に1周以上巻き付け(突き合わせ又はオーバーラップ)		
	表面材 (充てん材側)	材料	①又は② ①ガラス繊維強化アルミニウム系テープ ②アルミニウム系テープ	
		厚さ	0.18(±0.1)mm以上	
	シート (本体)	材料	黒鉛含有ブチルゴムシート	
		厚さ	3mm以上	
		密度		
	裏面材 (配管側)	組成 (質量%)		
		材料	仕様 : あり又はなし ①、②又は③ ①ポリオレフィン系フィルム ②ポリ塩化ビニル系フィルム ③ナイロン系フィルム	
		厚さ	0.05mm以下	
	充てん材①	材料	セメントモルタル	
組成 (質量%)		普通ポルトランドセメント	25	
		砂	75	
	充てん量	配管とスリーブ又は配管と躯体(壁)との隙間に密に充てん(壁厚方向 75mm 以上)		
充てん材②	材料	仕様 : あり又はなし セメントモルタル		
	組成 (質量%)	普通ポルトランドセメント	25	
		砂	75	
	充てん量	スリーブと躯体(壁)との隙間に密に充てん(壁厚方向 75mm以上)		

表3 配管の仕様

項目	仕様				
配管	リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(JIS K 9798) (記号：RF-VP)	外径	φ 114mm以下	厚さ	7.1mm以下
	結露防止層付硬質塩化ビニル管 外層：塩化ビニルスキン層 中間層：塩化ビニル発泡層 内層：硬質塩化ビニル層		φ 89mm 以下		10mm以下

4. 副構成材料の仕様：

副構成材料の仕様を表4に示す。

表4 副構成材料の仕様

項目	仕様	
スリーブ	材料	仕様：あり又はなし ①又は② ①鋼製(めっき処理、焼付塗装品含む) ②ステンレス鋼板
	寸法	厚さ：0.25mm以上 幅：75mm以上
粘着テープ	材料	仕様：あり又はなし ①～⑥の一 ①ポリオレフィン系 ②ポリエステル系 ③ポリ塩化ビニル系 ④紙 ⑤アルミニウム系 ⑥ガラスクロス系
	寸法	厚さ：0.2mm以下 幅：50mm以下
	使用方法	必要に応じて、熱膨張性シートの固定に使用

5. 構造説明図：
 構造説明図を図1及び図2に示す。

単位 mm

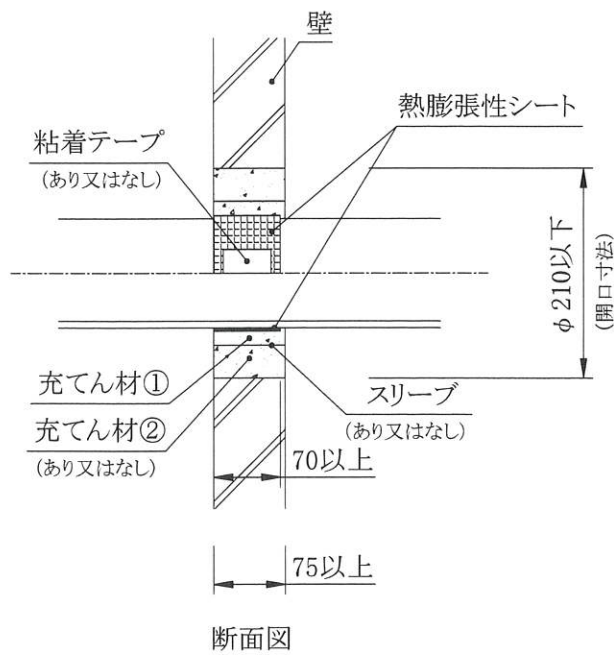
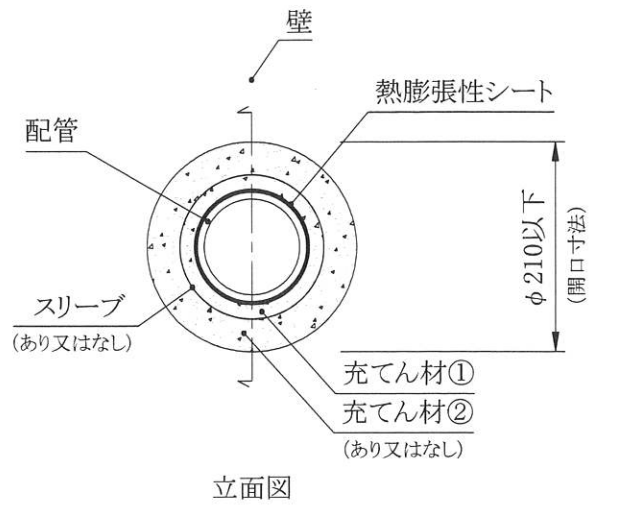
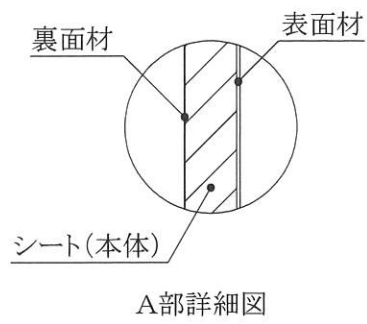
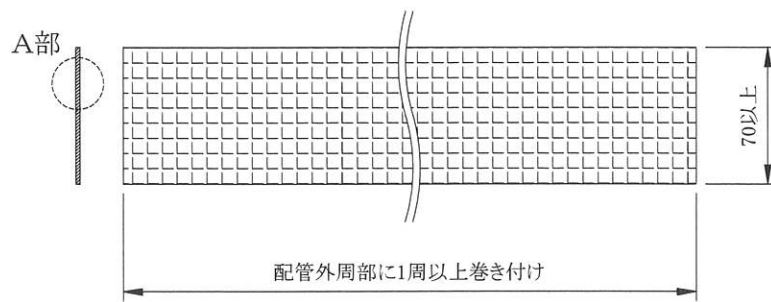


図1 構造説明図(施工図)

単位 mm



熱膨張性シートの詳細図

図2 構造説明図

6. 施工方法：

施工は、以下の手順で行う。

(1) 貫通穴の設定

ボイド管やコアドリル等を用いて貫通穴を設ける。

(2) 配管の設置

配管を設置して支持・固定する。

(3) 熱膨張性シートの巻き付け

配管に熱膨張性シートを1周以上巻き付ける。(突き合わせ又はオーバーラップ)。必要に応じて粘着テープで熱膨張性シートを固定する。

(4) 熱膨張性シートの設置

熱膨張性シートを70mm以上埋め戻すようにスライドさせる。

熱膨張性シートの幅が70mmを超える場合は、超えた分が壁からはみ出ても良い。

(5) 充てん材の埋め戻し

配管と躯体の開口部の隙間に、充てん材を密に充填する。